

阿蘇家保だより

平成27年12月号

熊本県阿蘇家畜保健衛生所

〒869-2612 阿蘇市一の宮町宮地2639-1

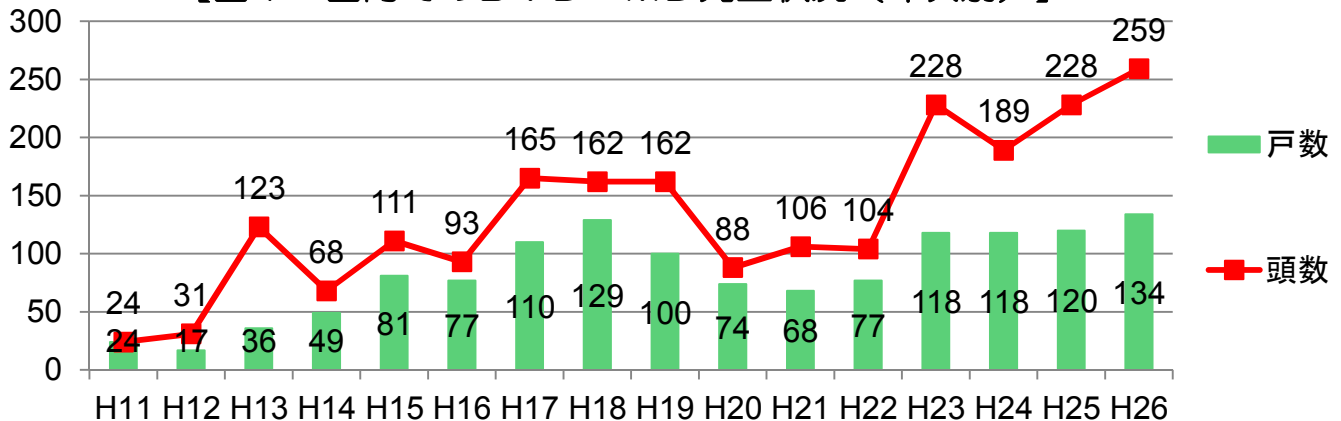
TEL 0967-22-0041 FAX 0967-22-4612

牛ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD) が増加しています！

牛ウイルス性下痢・粘膜病 (BVD-MD) とは？

BVD-MDとは、平成10年に届出伝染病に指定され、全国的に発生件数が増加傾向(図1)にある牛の疾病です。牛ウイルス性下痢(BVD)ウイルスの感染によって起こり、I型、II型等に分類され、季節、地域に関係なく発生します。健康牛に感染した場合は、一過性の発熱、呼吸器症状及び下痢を呈するか、もしくは、感染のみで症状は呈さず、その後、終生免疫(一度の感染で生涯その感染症に罹らない)を獲得します。これだけなら、それほど問題とはなりません、問題となるのは持続性感染牛(通称:PI牛)です。

【図1：国内でのBVD-MD発生状況(年次別)】



持続感染牛 (PI牛) とは？

妊娠牛がBVDウイルスに感染すると容易に胎盤から胎子に感染し、そのときの胎子の日齢により流産や奇形などの先天異常が起こることがあります(図2)。

特に、胎齢100日前後の胎子に感染すると胎子の免疫機構ができあがっていないため、感染したBVDウイルスを自己と認識し抗体を作らず、ウイルスに対して免疫応答しない状態(免疫寛容)となることがあります。この免疫寛容の牛を持続感染牛(PI牛)といい、PI牛は生まれてから死ぬまで一生BVDウイルスを排泄し続け、周囲への汚染源となります。また、PI牛は、一見、健康牛のように見える無症状の例もありますが、慢性的な下痢、成長不良、不受胎や致死性の粘膜病を発症するものもあります。

【図2：胎齢毎のBVD-MD感染による影響】



BVD-MDの対策について

☆まずは、ワクチンを接種して、感染を予防しましょう！

ワクチンは、生ワクチンと不活化ワクチンがありますが、生ワクチンは妊娠牛に接種すると、**流産やPI牛を作ってしまう可能性がある**ので、**妊娠牛には、必ず不活化ワクチンを使用して下さい！**

実際にワクチンを接種される場合は、かかりつけの獣医師又は最寄りの家畜保健衛生所へご相談ください。

☆PI牛の早期摘発・淘汰をしましょう！

PI牛の多くは一見正常で、臨床的に発見することはなかなか困難です。

「異常子牛が多い」、「流産が多い」などBVD-MDを疑うようなときは早めに家畜保健衛生所へ病性鑑定を依頼しましょう。PI牛は治療方法が無いので、早期の発見、淘汰がBVD-MDの拡大を防ぐうえで重要です。

☆日頃からPI牛を農場に入れないようにしましょう！

外部から牛を導入する場合は、ワクチン接種状況等を確認してから導入しましょう。

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
高病原性 鳥インフルエンザ	韓国	9月16日～10月27日	家禽（あひる、鶏）	H5N8
		9月9日	あひる	H5N2
		9月9日	あひる	H5N2
	台湾	10月14日	地鶏	H5N2
		10月16日	あひる	H5N2
		10月20日	地鶏	H5N2
口蹄疫	モンゴル	10月2日	牛、羊、山羊	O型

12月1日現在

毎月20日は家畜防疫の日

毎月20日は飼養衛生管理基準の自己チェックおよび農場消毒を行う日です。口蹄疫や鳥インフルエンザ、PED等の家畜伝染性疾病の侵入を防ぎ発生を予防するためには、地域一帯の衛生水準を上げる事が重要です。

農場を守るため、**20日の飼養衛生管理の自己チェックと消毒を習慣化**させましょう！

防災情報や家畜伝染病発生情報を配信しています。
下記アドレスもしくはQRコードより、
登録用ホームページへ！

<http://www.anshin.pref.kumamoto.jp/>

